

中高年の大型バイク事故が続出

なぜ、曲がり切れないのか

55歳を境に事故が増える

2020/8/6(木) 7:00

最近、中高年ライダーによる事故が再び目立っている。

2日午後、石川県の県道で大型バイクが転倒し50代男性が死亡。現場は緩やかなカーブで友人とツーリング中だった模様。警察では男性はカーブを曲がり切れずに転倒したとみて事故の原因を調べている。

同じく2日午後、長野県の県道で大型バイク2台が絡む事故があった。現場は左カーブで男性(66)がガードレールに衝突し路外に飛び出し死亡、すぐ後ろを走行していた男性(50)も転倒して重傷に。警察によると、男性は仲間10数名とツーリング中で、カーブを曲がり切れずに衝突したものと見ている。

55歳を境に事故が増える

自工会がまとめた「2019年度二輪車市場動向調査」によると、2019年の二輪新規購入者の平均年齢は54.7歳に達するなど年々高齢化が進んでいる。バイク事故と高齢化には関連がありそうだ。

米国で年齢別の事故発生件数を調べた興味深いデータがある。

これによると20代前半に事故発生率が一度ピークを迎え、その後55歳ぐらいで底を打つものの、60歳を過ぎると加速度的に事故が増えていく。

職業ドライバーであるバス運転手でもほぼ同様の傾向を示しているという。

若者は運転技術の未熟さや過信による事故が多く、その後経験を積むにつれ事故も減っていくが、それ以上に加齢による衰えが大きくなると事故が増えるという構図が見えてくる。

これらは4輪の調査がベースではあるが、事故と年齢の関連性という意味では2輪にも参考になると言えるだろう。

● 「速いが偉い」は願い下げ

また、事故例を見ていると、仲間とのツーリング先で発生しているケースが目立つ。

一人なら無理しないところを、集団で走っているとつい周囲のペースに吞まれてしまったり、離されまいと普段は出さないスピードで付いていこうとしてしまったり……。